

参加者

西澤、浮津、藤原、大竹、丸田、川邊、隈部、中川、増渕、見城、杉田、中島、村松、西尾、玉置

第1部

1) 各校の保健学習・指導の状況

隈部

先週から通常登校となった。今は検討事が出た場合に企画会を行っている。

増渕

今年度はまだ保健の学習を実施できていない。2学期から T.T で実践していく。今までは、グループで課題解決等の学習活動を展開してきたが、コロナ渦において、どのように楽しい保健の学習をしたらよいか検討している。また、保健に関する指導については全体では実施できていない。現在行っているのは、給食の時間の手洗いの歌指導と熱中症レベルの注意喚起を行っている。

浮津

分散中は人グループずつ養護教諭が全学級にコロナに関する指導を行なった。応援してくれている人がいる。学校では手洗いを徹底している。校庭に並べてから教室に入る。この時期だからできることもある。短髪で終わらないようにしていきたい。

丸田

コロナに関する指導(生活指導、偏見差別)などは分散中に行った。授業は7月後半から実施予定。現在は少しずつ検診を始めている。

大竹

保健の学習は保健部の資料を活用し、高学年では分散中に実施した。低学年は資料の中の絵本のみ抽出して実施した。他にも、手洗い、マスクの付け方などの資料を活用している。6年生は感染症の予防について、一斉が始まった段階で行っているところ。

2) 正副部長会③ (参照資料「第3回保健部会」ppt)

夏季合研日時・参加者等について

年度当初の日程から変更があり、8月18日になった。会場は東村山市立八坂小学校。5会場に分かれて実施する。時程は2部構成となり、各1時間の分科会となる。自分の部の発表がない時間は5会場に2名ずつ分かれての参加となる。参加は各部10名まで。保健部では正副合わせた運営のメンバーで8名となるが、運営メンバーを優先としつつ、参加を募っていきたい。

夏季合研分科会について

1開会 2研究経過(15分) 3協議(40分) 4まとめ及び挨拶 という流れ。

研究経過の15分が大事だと考えている。先日調査研究部より資料が出たため、それを加味して作っていかないといけない。また、学習課題という言葉も出ている。まずは、保健部として「課題」について考えて固めてから調整をしていきたい。

コロナ禍における年間指導計画について

正副部長会でコロナ禍の年間指導計画をアップしたという話が合った。ぜひ、近くの先生、専門員の先生などに広めてください。

今後の保健部の見通しについて

- 1) 夏季合研までのゴール・・・参加者が満足できる会に。
- 2) ゴールまでのプロセス・・・課題の捉えや手立ての具体案については、【たたき台→検討→たたき台→検討】という形で検討を重ねていきたい。
- 3) 部会の予定
7月1回目に課題と手立て。2回目は課題と手立て、プレゼン。8月1回目はプレゼン、協議の内容。8月2回目すべての確認。という流れで夏季合研を迎えたいと考えている。

3) 「課題」の捉え 共有 (参照資料「保健学習における「課題」とは」ppt)

部長

小体研の研究の視点に基づくと、課題は教師が提示する課題ではなく、児童一人一人が見出したものを課題としている。

児童一人一人が自ら見出す課題として考えた際、児童から出てきた考えの多くが課題と捉えられそうではあると感じたが、他領域の情報などを聞きつつ、課題を限定していくとよいのではないかと考えた。

そこで、保健部としては保健の知識や情報と自分自身の生活を照らし合わせた際に出てくる問題(心や体の不安や悩み、疑問等)が課題と捉えられえるのではないかと考えた。

【小グループの協議について】

以下の視点で意見を出してもらい、次回部会までに整理して再度提案をしていく予定。また、考えていて困ったことなども挙げてもらえれば部会の運営に生かしていきたい。

視点1 課題のたたき台についての検討

→良い点・改善点についてあげる。

視点2 課題を児童に見出させるための手立ての検討

→おおまかに、具体的に、学年別、授業ごとなど、ブレインストーミング的に

グループ1

- ・保健領域は運動領域と異なり課題解決の時間をとるのが難しいと感じている。その中で、社会科の学習問題の出し方もヒントになるかもしれないが、教師側の出した課題になるから悩ましい。

グループ2

- ・知識から問題を考えていくという流れはわかりやすいと感じた。
- ・問題という言葉のマイナス印象があるため、言い換えた方がよいのではないか。
- ・知識習得場面での課題解決についても考えていく方がよいのではないか。

グループ3

- ・提案はわかりやすい。しかし、問題点だけが課題ではなく、+αの部分も課題にしていきたい。それは

今までの保健部のやってきたことでもある。

- ・保健部は健康上の課題だけではなく、自己実現とか夢に向かってという視点でも研究を進めてきたため、そのような枠があってもよいのではないか。

グループ4

・運動領域と違って、保健は学習指導要領に課題が明確に示されている。課題について検討していくことも重要ではあるが、基本を忘れずに。今後は手立てを考えていくことが重要になっていくのではないか。

第2部 第1部後半の続き（グループは再度シャッフル）

グループ1

○視点1について

- ・保健では、学習指導要領に課題が明確に示されているため、そこまでいじらなくても良いのではないか。ただ、課題を問題意識・問題点としてしまうと「課題」という言葉がマイナス要素になってしまうため、自己実現的なプラス要素が加えていかないといけないのではないか。

○視点2について

細かなものとして、

- ・教科書等の資料との比較検討
- ・養護教諭との連携
- ・発問
- ・教師の声掛け
- ・活用方法の手段
- ・資料の提示の仕方 等

ただ、夏季合研に向けて話し合う手立てとしては細かな手立てではなく大きくとらえた手立ての方がよいのではないか。

グループ2

○視点2について

- ・数値（実験結果・自身のレーダーチャート等）を見せることで自分の課題がわかるのではないか。
- ・チェックシート。
- ・既存のものとして、体力テストのアンケート結果を使う
- ・全国学力調査のアイチェックも活用。
- ・良くないシナリオを見せて考えさせる

グループ3

○視点1について

マイナスイメージじゃないものが良いのではないか。例えば『保健の知識や情報を自分自身の生活に照らし合わせて出てくるより健康になるための学習課題』としたり、課題を二つにすることも方法の一つではないか。

○視点2について

- ・正しい情報を示す。
- ・ケーススタディ
- ・ブレインストーミング
- ・映像資料
- ・養護教諭の活用（身近なことに触れていく。）
- ・対比。
- ・保護者のコメント
- ・保健の意義を伝えて、将来について考えさせる

グループ4

○視点1について

生活習慣が整っている、知識を知っている場合にどうするか。課題の立て方として、自分の生活と照らし合わせてみる必要があるのでは。また、自己の生活習慣が整っていない子への課題のもたせ方はどうするのか。

○視点2について

- ・4年生の学習内容では、例えば赤ちゃんの写真を見せてこれからどう変わっていくのか考えさせる。
- ・実験（手洗い・風船）
- ・自分の歯を見る
- ・校内の安全→地図を描く。
- ・男性教員と養護教諭の体つきを身近な大人として見せる。
など、導入の工夫（課題を自分事して捉えさせる）を行い、日常を振り返らせ、継続の大切さを伝えていく等。
- ・ケーススタディ・ロールプレイ

常任理事の先生方より

浮津

現在話し合っている内容は、まさに1年間の研究の柱の部分です。Zoomでの話し合いであり、難しい現状ではありますが現在の状況を考えると仕方ないように思います。部員の意見を集約しながら、研究をまとめていけたらと思います。新型コロナウイルスに関する資料、部員の皆さんが中心となり、是非各区市に情報提供し、活用していただきたいです。

藤原

保健部では学習課題を「自分事」を一つのキーワードにしてきました。今年の小体研のテーマから考えたら、「子供一人一人が自らの課題を見出す・・・」課題は教師をはじめ誰かから与えられるものではなく、見つけさせるものでもなく、自分で見つける気づくものと考えている保健部のとらえ方は的を得ているのではないかと。基礎研究は苦しいが、頑張りましょう。